

こども通信

よつやく秋のしのぎやすさを感じられるようになりました。暑い夏が終わり、厳しい冬への通り道。

穏やかに過ごしたなどは思うのですが、世の中の動きがどちらも不穏。心配なことがいろいろあります。

* * *

先月、台風15号により主に千葉県で猛烈な強風が吹き、甚大な被害がもたらされました。数万戸の家の屋根が吹き飛び、大規模で長期間の停電がおこりました。おそるべき被害規模です。

しかし、災害救助の対応があまりにお粗末でした。国は災害対策本部すら設けず、自治体に任せっきり。その自治体は長びく停電のために機能せず。その結果、住民は置いてきぼりになりました。

「棄民」という、恥まわしい言葉



よつやく秋のしのぎやすさを感じられるようになりました。暑い夏が終わり、厳しい冬への通り道。

穏やかに過ごしたなどは思うのですが、世の中の動きがどちらも不穏。心配なことがいろいろあります。

が当てはまるような状況。これが21世紀の日本で起きたなんて、何と言ふことでしょう。

台風に限らず地震などの自然災害で大規模な被害がおこるのは、「想定範囲内」のこと。その時にどうな対応をし、国民を守るのかといふ備えを国がしっかりとしておくべきです。これまでの災害から何を学んでいるのでしょうか。

國を守るといつて戦争に備える準備を着々と進めていますが、その前にまず国民を災害から守ってほしい。

国民の生活をどう考えていくのでしょうか。それも不安です。政治のあり方を、今こそしっかり考えなければいけない。これではとても躊躇できません！

塙田こども医院

小児科・アレルギー科
上越市栄町 2-2-25
TEL 025-544-7779(代)
025-544-7779(保育室)
FAX 025-544-8456

各種ネット予約
www.0255447777.com/i
ホームページ
www.kodomo-iin.com

感 染 症 情 報

手足口病の流行がまだ終息していません。今夏の流行規模はとても大きく、また長く続いています。当初は高熱になり、口内痛も強いなど、重症感がありましたが、今は症状が穏やかな手足口病が多いです。これは複数のウイルスが同時に流行しているためです。実際に、1シーズンに2回手足口病にかかるお子さんもいます。

同じ夏かぜの一つであるヘルパンギーナは、しだいに発生数が少なくなっていました。

手足口病にかかったあと数週間後に、手足の爪がはがれるような変化が見られることがあります。これは一時的に爪を作る細胞が阻害されたための症状ですが、その後また爪は作られるので、何も治療せずに普通の状態に戻りますので、ご心配なく。

感染性胃腸炎の発生も、夏場なのに続いていました。

R S ウィルス感染症、ヒトメタニューモウイルス感染症の流行が続いている。以前は冬場の感染症といわれていましたが、現在はむしろ夏場の方が流行しています。気管支炎や喘息発作の状態になります。伝染力が強く、園などで集団発生しがちです。

インフルエンザが当地でも少数ながら発生しています。すでに流行期に入った地域もあります。今シーズンは例年より早く流行が始まることかもしれません。注意していて下さい。

風疹や麻疹の発生は当地ではありません。

インフル予防接種のご案内

- ただいまネットでご予約を受け付けています。
- 専門外来は 10月 18日から、土曜午後（13時30分～）と平日昼間（月・火・金、14時～）です。

<http://www.0255447777.com/i/>



今 月 の 予 定

院長出務

- 上越市立たにはま保育園健診 2日
県立看護大学小児科学講義 9、16日
上越市夜間診療所出勤 16日（副院長）
聖母保育園健診 23日
上越市立有田保育園健診 30日
上越有線放送 「健康ライフ」 15日
FM 上越「Dr. ジローのこども健康相談」
毎週木曜午後 1:20頃～(76.1MHz)
感染症情報（毎週）
FM 上越：木曜午後 1:35頃～
上越有線放送：月曜午後 6時～（番組内）

重症ごを見逃さない

子どもは急にお腹を痛がつたり、吐いたりすることがあります。そんな時に、どんなふうに見ていたらいいのか、考えてみたいと思います。

●重症感は?

まずはお子さんの様子を見て下さい。痛がり方が強く、グッタリしている、顔色が蒼白などといった状態なら、病気の種類を問わず重症かもしれません。

一言でいえば「重症感」。具体的にどうなっているか説明できなくてかまいません。でも、小児科ではとても大切な考え方なのです。

小児科医も診療の最初にここを見ています。元気よく診察に入つていていれば、緊急性があり重症な状態ではないでしょう。でも、真っ青な顔をし、グッタリしている時は違います。重症な状態なのかもしれないと思いながら診察します。

といったことは、小児ではとても大切です。それはお子さんの普段の様子を見ている親御さんが一番分かることだと思います。

●病状の見立て

年齢によつても起きやすい病気が違います。それも考慮しながら診療するのは小児科の技術です。

例え赤ちゃんでは腸回転異常症や腸重積症は一刻も早い治療が必要です。とにかく具合が悪くなるのが特徴です。

私たち小児科医も直ちに診断をつけられるとは限りません。でも、重症感があり、自分の手に負えないと判断すればすぐに病院の小児科や小児外科に依頼します。

時々、このタイミングが問題になります。初めから、とにかくおかしい、重症な病気のようだと分かることがあります。(永年の臨床医の勘かとがあります)(永年の臨床医の勘か)もしませんが、時に空振りもしてしまいます。

あるいは、当初は重症ではないと思つて治療をしているけれど、その後容態が変わることもあります。そ

の変化(進行)を見逃さないのも小児科の仕事です。

大人の診療とは違つて、小児科の診療は子どもの負担にならないよう、検査なども最小限。そのためには最初から診断がついているわけではありません。こまめに受診してもらうのもそのためです。

きっとどうだらうな、と推測で診療を進め、経過が思わしくない時に遠慮なく伝えて下さい。この時に、当初の見立てに固執する、判断を誤ることがあります。それを肝に銘じながら、私たち小児科医は診療をしています。

具体的な病気については、また別の機会にお話をしたいと思います。この時に、当初の見立てに固執する、判断を誤ることがあります。それを肝に銘じながら、私たち小児科医は診療をしています。

は診断を見直すことがしばしばあります。ですので、ご自宅でお子さんの様子が医師の見込みと違う時には遠慮なく伝えて下さい。

胃もたれに六君子湯

前回は赤ちゃんの吐きぐせ(胃食道逆流)に「六君子湯(りくくんしどう)」効果があり、役立っていると書きました。今回はもう少し大きなお子さんについてです。

六君子湯はもともとは大人でよく使う漢方です。胃の働きをしっかりさせ、胃もたれや食欲不振に効果があります。

食事をすると、まずは胃の中に収まり、その後ゆっくりと胃の出口(幽門)から十二指腸に送り出されていきます。そのためには胃底部(胃の下の部分)が大きく広がらなくてはいけません(弛緩すると言います)。

時に食事をとった時にもたれた感じがするのは、この胃底部の弛緩がおきず、小さな胃に食物が充満しているからです。

胃の構造などに問題があるわけではなく、胃の働きにトラブルがおきています。内視鏡などの検査でも胃の中に異常は見られません。これを「機能性ディスペプシア」と言います。(「ディス」は否定する接頭語、「ペプシア」は消化を意味します。コーラの「ペプシ」はこれからとられたのかも)

こんな時は消化を助ける薬を使いますが、いわゆる西洋薬のキレはよくありません。そこで漢方の出番に。六君子湯は胃底部の緊張をとる働きがあり、機能性ディスペプシアによる胃もたれ、食欲不振の効果があります。

こういった病気は大人だけではなく、子どもにも時々みられます。とくに思春期のお子さんで、やせ形の体型をしていて、あまり食欲がない場合には、試していい漢方です。